

論文審査結果の要旨

氏 名：飯田 涼太

学位の種類：博士（危機管理学）

学位論文名：人命救助におけるドローンの活用効果検証とリスク管理手法の確立

審査委員（主査）：小濱 剛

（副査）：岡林 徹

（副査）：海老根 雅人

（副査）：高谷 健太（川崎医療福祉大学）

近年、ドローンは技術の進歩により比較的安価に入手可能となり、その汎用性の高さから、物流、撮影、設備点検、農薬散布、測量など様々な分野で利用されている。本研究では、海難救助におけるドローン活用の有用性を検証するとともに、ドローン活用時に生じるリスクを整理し、社会実装を見据えた安全運用の枠組みを体系化している。研究内容の大まかな内訳は、「ドローンの有用性についての検証」、「インシデントレポート様式作成の試み」、「ドローン事故分析モデルの提案」、「実証実験」の4部で構成されている。「ドローン活用の有用性検証」では、溺者発見時間について目視とドローンによる監視との差が定量的に示されている。「インシデントレポート様式作成の試み」では、ドローン活用時におけるPDCAサイクルを円滑に機能させる基盤として、ヒヤリハットを含む過去の事故事例収集モデルが提案されている。「ドローン事故分析モデルの提案」では、ヒューマンエラー分析モデル（SHELモデル）を参考として、ドローン専用の事故分析モデルが提案されている。「実証実験」では、九十九里トライアスロン大会におけるスイム監視業務において、ドローンによる試験的な社会実装を行い、その結果について検証および考察がなされている。

学内外の副査3名を交えて協議した結果、これらの成果は危機管理学の観点からドローンの安全運用に資する研究であり、学術的・実務的にも意義があるため、本学危機管理学研究科における博士論文として相応しい内容であると判断した。また、論文審査にあたっては、研究科長及び専攻長を含む教職員や学生のみならず、一般にも公開された公聴会を経て、学内外の審査委員による口頭試問を行い、飯田涼太氏に博士（危機管理学）を授与することが決定された。